

神を知る

シリーズ・パウロ 第9回

使徒14:8～20

リストラでの出来事

- 足の不自由な人を癒したパウロ
 - パウロの話を熱心に聴いていた男が「癒される信仰がある」と見抜いた
- この出来事を見た人々がパウロとバルナバを神として礼拝しようとした
 - バルナバをゼウス、パウロをヘルメスと呼んだ
 - ゼウス神殿の祭司が牛と花輪を運んできた
- パウロは創造主である真の神について語った
 - 神は人間の人生を喜びで満たされる

知ることのできる神

➤ 自然の美しさ・調和

- 「天は神の栄光を物語り／大空は御手の業を示す。」 <詩篇19:2>

➤ 人生の喜び(ありがたさ)

- 「食物を施して、あなたがたの心を喜びで満たしてくださっている」 <使徒14:17>

➤ 良心(罪の意識と道徳心)

- 「彼らの良心もこれを証ししており、また心の思いも、互いに責めたり弁明し合って、同じことを示しています。」 <ローマ2:15>

間違った神観

➤ 何でも神にしてしまう

×「鰯の頭も信心から」: 信じれば神になる

○神であるから信じるべき

➤ 被造物を神にしてしまう

- 造られた物より造った方を礼拝すべき

➤ 必要に応じて神を選ぶ

- 結局自分自身を神としている

人間は神を求めているが
正しい知識を持つことができない

間違った神観の結果

- 目に見えないものを何でもかんでも信じ、惑わされてしまう
 - 霊・呪い・祟り・お化け・占い・おまじない……
- 自分自身の存在理由が分からない
 - 自分がなぜ生きているのか分からない
- 神との正しい関係が築けない
 - 神を正しく礼拝することができない

聖書の教える神

➤ 唯一

- 信じるなら一つにする

➤ 創造主

- 自分は神に造られ生かされていることを認める

➤ 愛なる神

- 独り子を与えるほどに私たちを愛しておられる

➤ 正しく信じることを求めておられる神

- 神を正しく信じることこそ最高の幸福である

福音を伝えよう！

聖書はこう言っています。「彼に信頼する者は、失望させられることがない。」ユダヤ人とギリシヤ人との区別はありません。同じ主が、すべての人の主であり、主を呼び求めるすべての人に対して恵み深くあられるからです。「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる。」のです。しかし、信じたことのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を、どうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。

<ローマ10:11-14>